

## 令和7年度第2回三次市総合教育会議

- 1 日 時 令和8年3月17日(火)  
開会 9時00分  
閉会 9時40分
- 2 会 場 三次市役所本館6階 602会議室
- 3 出席構成員  
市 長 福岡誠志  
教 育 長 迫田隆範  
教 育 委 員 小根森直子  
教 育 委 員 井岡直美  
教 育 委 員 藤井皇治郎  
教 育 委 員 小川治孝 (Web)
- 4 出席職員等  
(教育委員会事務局)  
教 育 部 長 宮脇有子  
教育企画課長 渡部真二  
学校教育課長 新谷勝治  
教育企画係長 高野寛久  
教育企画課主事 平奈菜巴  
  
(事務局)  
経営企画部長 笹岡潔史  
企画調整課長 加藤 泰  
企画調整課係長 永迫文恵  
企画調整課主任 歳秀隆星
- 5 協議事項  
・三次市立学びの多様化学校について

(事務局)

開会に先立ち、総合教育会議は原則公開とされているため、公開により行う。それではただいまから、令和7年度第2回三次市総合教育会議を開会する。総合教育会議は、市長、教育長及び教育委員で構成される。本日は小川委員がWebでの出席となる。

開会にあたり、福岡市長から挨拶を申し上げる。

(福岡市長)

早朝にも関わらず、本日の総合教育会議に出席いただきお礼申し上げる。

3月に入り市内の中学校や高校で卒業式が行われており、子どもたちが一つ一つ階段を上っていると感じるとともに、更なる活躍を祈っているところである。

教育委員の皆様をはじめ、教育委員会や多くの方々の支えにより、子どもたちの学びに対して継続的な協力をいただいております、改めてお礼申し上げる。

昨日、3月定例市議会が閉会し、令和8年度予算案が議会で可決・承認されたところである。その中で先般、総合教育会議で協議させていただいた、「三次市立小中学校の給食費無償化」についても可決いただき、いよいよ準備を進めていくところとなった。

三次らしい学校給食を通して、子どもたちが大人になったときに、「あの時の給食はこうだったよね。美味しかったよね。」とふるさとを思い出す、あるいは、本市とつながり続けることが給食の一つの意義であると感じている。引き続き、皆様のご理解とご協力をいただきながら、三次らしい学校給食を追求していきたい。

そして、今回可決いただいた当初予算案は、時代の変化に対応していくため、将来の礎を築いていくという決意のもとで予算を編成したものである。

人口減少など社会情勢を取り巻く環境は厳しい状況にあり、また世界的にも最近ではイラン情勢が日本の社会情勢に影響しつつあると感じている。

今後においても、そうした対応も含めて、市民にしっかりと寄り添い将来を見据えて、不断の決意で様々なことを前に進めていきたいと思っている。

また、とりわけ教育分野では、すべての子どもたちにとって魅力ある学びの環境づくりを進めるため、来年度予算における三つの重点方針の一つとして、「市立小中学校給食の無償化」と、「三次市立学びの多様化学校の設置」に向けて取り組むこととしている。

本日の総合教育会議では、この「三次市立学びの多様化学校」について、委員の皆様と意見交換をさせていただき、今後の設置に向けた準備を着実に進めていきたいと思う。

不登校などにより学びの多様性が課題となっているが、三次市内の子どもたちに豊かな教育環境を提供できるよう、引き続き、我々も教育委員会としっかりと連携し、取組を一步一步進めていきたいと思う。引き続き、委員の皆様のご理解とご指導をいただくことをお願いし、総合教育会議の冒頭の挨拶とさせていただきます。

(事務局)

それでは協議事項に移る。ここからの進行は議長である市長にお願いする。

(福岡市長)

それでは、協議事項の「三次市立学びの多様化学校」について、教育委員会より説明をお願いします。

(教育委員会)

「三次市立学びの多様化学校」について説明

(福岡市長)

それでは、私から補足をさせていただきたい。

ご承知のように、近年、全国的に不登校の児童生徒が増加傾向にある中で、本市においても例外ではない状況にある。

私自身も子どもたちの状況に応じた学びの選択肢を増やしていくことについては強い思いを持っており、この学びの多様化学校についても、その思いの一端として進めている。

この間、教育委員会を中心に検討を進めていただき、先ほど説明があったように令和9年4月の開校に向けて準備を進めている。

昨日、市議会の全員協議会でも説明させていただき、そして本日の総合教育会議を経て、3月末には文部科学省に申請するという流れになっている。そして、今年の6月の定例市議会には、学びの多様化学校に係る条例案を提出していくよう考えている。

その中で、学校に行きたいけれども行けない、学びへのアクセスができない、あるいは集団に馴染めないという児童生徒がいるということも含めて、子どもたちに安心して学ぶ環境をしっかりと提供していきたいと考えている。また、それぞれの子どもの特徴や興味・関心を軸とした柔軟なカリキュラムを編成することにより、学びを進めていく環境を整えていきたいと考えている。

本市には大自然があつたり、温かい人がたくさんいるなど、学びを進める上で本当にすばらしい環境が整っている。

「三次市にはいろいろな学びのチャンネル・選択肢があるよね。」と様々な人に知っていただくことも大切であり、そうした取組について私自身も様々な機会を捉えて発信していきたいと考えている。

1年後の学びの多様化学校開校に向けて、市長部局としても地域と子どもの関係づくりや地域の中での学びの多様性についてしっかりと取り組んでいきたい。引き続き、よろしく願い申し上げる。

続いて迫田教育長の考えを伺いたい。

(迫田教育長)

まず、学びの多様化学校の位置付けについてお話をさせていただきたい。

「第3次三次市総合計画」と、教育大綱と教育振興基本計画を一体的に策定した「みよし学びの共創プラン」が令和6年度からスタートしている。

こうした中で、すべての子どもたちにとって魅力ある学校づくり、あるいはすべての学校が魅力ある学校づくりをさらに進めていき、「みよし結芽人」を育てていくということを基盤とし、この学びの多様化学校を「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針」の中で学校再配置の取組の一つとして位置付けている。誰一人取り残さないために、学びの選択肢を広げることから、この学びの多様化学校の設置を進めているところである。

市長からもあったように、この学びの多様化学校の設置は、本市にとって必要な手段の一つであり、これまでも調査研究を重ねながら、制度設計を進めてきた。

具体的にこの取組を進めるにあたって、今年度認定NPO法人カタリバと連携協定を締結し、全国規模の情報収集を進めるとともに、不登校対策の強化も始めている。また、設置を検討している小規模特認校とあわせて、有識者の方から幅広くご意見をいただく場として「三次市立学びの多様化学校等の設置に係る検討会議」を設置し、様々な意見を聞かせていただいている。

学びの多様化学校の設置は広島県内でも初めてであり、本市の取組がグランドデザインに当たるものと捉えている。本市の課題に対応していくということだけではなく、同様の課題を抱えている県内の市町においても本市の取組が一つの事例、または具体的な情報発信の拠点になると考えられることから、取組の充実を図っていけるよう、しっかりと制度設計をしていきたいと考えている。

本日の意見交換の内容も踏まえて、現在設計している制度のブラッシュアップを図り、文部科学省への申請につなげていきたいと思う。

文部科学省や県教育委員会との連携や、検討会議での意見交換などを着実に積み重ねながら、令和9年4月の開校にしっかりと照準を定めて取り組んでいきたい。

(福岡市長)

それでは、他の委員の皆様からもコメントをいただきたい。

(小根森委員)

本日はこのような機会を設けていただき感謝申し上げます。

この度の学びの多様化学校の設置については、広島県では最初ということだが、全国では何校も設置の例があり、機が熟してきたものと感じている。

三次市は、これまでも先陣を切って様々なことに取り組んでこられたが、学びの多様化学校の設置についても本当に良い取組だと感じている。

先ほど市長も述べられたが、三次市には体験活動の素材が豊富にある。地域の力を借りながら、様々な体験活動を取り入れていくことで、子どもたちも学校に縛られない学びを得ることができると思う。

先日、雲南市のおんせんキャンパスを訪問した際、親でも友達でもなく、地域の方などの「斜めの関係」で関わる人がポイントになるということをお教わった。対等な人間として子どもたちと関わる人の存在が大切であり、それはやはり地域の人に協力してもらいながら取り組んでいく必要があると思う。

先ほど教育長がカタリバとの連携に触れられたが、カタリバは学びの多様化について深く研究されており、三次市の力になってくださると思う。

また、三次市の学びの多様化学校は、学校行事や部活動、校歌・校章を子どもたち自身で決めるという点がいいところだと感じており、自信をなくして心を閉ざしている子どもたちにとっては、自分たちで新しく何かをすることが励みになると思う。

三次市がこれまで大切にしてきた、誰一人取り残さない教育の一つの方法として、学びの多様化学校の設置は自分を好きになれる学校や自分の得意を見つかる学校として、大変期待できるのではないかと考えている。

(井岡委員)

本日はこのような機会を設けていただき感謝申し上げます。

十数年前には、子どもたちをどうしたらいいか悩んでいたのが、先ほどの説明を聞いて、いよいよ設置の日が来ることを本当にうれしく思っている。

三次市では「みよし結芽人～幸輝心～」というスローガンのもと、ひとづくりを進めている。人とのつながりであったり、課題などに対して自分で考えて行動できる人になってほしいという思いが詰まっているが、それができる子どもとできない子どもがいる。取り残される子どもがいないように、そしてすべての子どもが学びのスローガンに向けて学んでいけるということに、大きな喜びを感じている。

また、本日の資料の中で、学びの多様化学校では「どこでも学べる」と書かれている。必ずしも学校に行ける子どもだけではないので、自宅など様々な場所で学ぶことができるよう、市が取り組まれることにも本当に喜びを感じている。

そして、三次市には歴史があり、伝統文化もたくさんある。たくさん資源を子どもたちに提供し、そこで学んでもらうことで、将来子どもたちが三次を愛して、「三次に帰りたいな」と思ってくれると思う。

ただ、交通手段は気になっている。おんせんキャンパスでは広域から通学されており、手厚い支援をされていた。また、おんせんキャンパスには地域の方のほか、ドクターや心理カウンセラーも関わっておられた。

三次市でも実現するという事になれば、本当に嬉しいことだと考えている。

(藤井委員)

本日はこのような機会を設けていただき感謝申し上げます。

学びの多様化学校について、広島県内で初めての設置になるというインパクトに限らず、井岡委員も述べられたとおり、教育の現場としてもありがたいことだと思う。

私もPTAとして現場に関わらせていただいた際に、不登校の生徒はどういう状況なのかと校長先生に質問したことがある。個々の事情がバラバラ過ぎて、対応してもなかなか成果が上がらないという話だった。こうした事情もあり、いまだに全国的に不登校の子どもたちが増えているものと認識している。

学びの多様化学校などの新しい学校の設置が可能になってきたことは、子どもや大人にとっても大きな選択肢を得ることができるものと捉えている。

一方で、学びの多様化学校に入学する生徒は、小学校の人間関係を継続しづらいことが想定されるため、一定の注意も必要だと感じている。学校の管理者において、個々の情報を共有しながら、学びの多様化に取り組んでいただきたい。

また、先ほど小根森委員も述べられたが、カタリバの存在は大きいと感じている。全国の先進事例を参考にしながら、三次市の特色を出していければ、とても魅力的なまちづくりにつながるものと感じている。

皆さんとともに、学びの多様化学校の設置に向けて取り組んでいきたいと思う。

(小川委員)

本日はこのような機会を設けていただき感謝申し上げます。

この度の学びの多様化学校のように、新たな学校が設置されることで、個別最適な対応ができていくものと期待している。

先ほど小根森委員も述べられていたが、斜めから関わる存在が重要となる。お

んせんキャンパスでは、職員の半分の方が教員資格を持っていないと聞いた。様々な経験をされた方が学校に関わることで、様々な気付きを得ることができると、子どもにとっても職員にとってもプラスに働いている。

また、先ほど給食について市長も触れられたが、地域の食材を利用した給食で子どもたちを育てていくことが重要だと思っている。それと同じように学びの多様化学校に通う子どもたちが、より多くの地域で豊かな自然や温かい人たちと触れ合いながら育っていくことが重要だと思う。ここにひとづくりの原点があると思う。良い経験をした子どもたちが、大きくなって三次に帰って来たくなくなるような形になってほしいと思う。

実際におんせんキャンパスで学んだ生徒が、進学や就職後に経験者としてキャンパスに帰ってきて子どもたちに自分の経験を話すという例もあり、理想の形だと感じた。

一人でも多くの子どもたちが「良い経験をしたから、ここにまた戻ってきたい。」と思ってもらえる環境づくりに取り組んでもらいたい。悩みを抱えている子どもたちを、地域をあげて育てていくという思いを形にしたものが学びの多様化学校であってほしい。

通学方法については、今後も引き続き協議していただきたいと思う。

(福岡市長)

大きな後押しとなるコメントをいただいた。

課題もまだまだあると認識しているが、本日のコメントをしっかりと受けとめ、特に子どもたちがどのように通学するのかなどについても、教育委員会を中心に検討していきながら、来年4月からスタートできるように、引き続き準備を進めていきたいと思う。

学びの多様化学校の設置が報道されることで、他の首長から問い合わせをいただくなど、注目度も高まりつつあると感じている。

この学びの多様化学校が、三次市内の子どもたちにとっても市外の方にとっても良い影響となるよう、本日の意見を踏まえながら準備を進めていきたいと思う。引き続き、よろしく願い申し上げます。

本日本日予定していた議事が終了したため、進行を事務局に返す。

(事務局)

以上をもって、令和7年度第2回三次市総合教育会議を終了する。

なお、来週25日に第3回の会議を予定している。引き続きの出席をお願い申し上げます。